

図書館だより

2020 春

No. 255

調布市立図書館

水木しげる氏

表紙絵

＝あ～～よく寝た＝

表紙絵：水木しげる

- | | |
|-------------------------|-----|
| ・ 特集：「利用支援サービス」 | 2～5 |
| ・ 令和元年度子どもの本に親しむ会 | 6 |
| ・ 利用者懇談会報告 | 7 |
| ・ 郷土の歴史と伝承 | 8 |

※音声版をご希望の方は図書館へご連絡ください。

利用支援サービス

図書館の利用支援サービスをご存知ですか？図書館を利用されていても、ご存知でない方が多いのではないのでしょうか？

市内にお住まいの方，在勤・在学の方で図書館利用に障がいのある方に，次のサービスを行っています。利用はすべて無料です。

また，点訳図書，マルチメディア^{ディ}^ジ^{タル}図書の一部及び大活字本はどなたでもお借りいただけます。サービスにより利用条件が異なります。詳しくは中央図書館利用支援係にお尋ねください。



印刷物が読みにくい方へ

※本や雑誌などをそのままでは読むことが困難な方へのサービスです。

◆録音図書・点訳図書の貸出

さまざまな分野の本を音訳した録音図書（テープ図書・^{ディ}^ジ^{タル}図書）や，点訳図書があります。図書館に所蔵がないものは，他の図書館から借りることもできます。雑誌もあります。

貸出・返却は郵送をご利用いただけます。また，^{ディ}^ジ^{タル}図書の再生機は図書館で貸出もしています。

- ・貸 出：20タイトルまで
- ・期 間：2週間

●^{ディ}^ジ^{タル}図書と再生機



●点訳図書 ※どなたでもご利用いただけます。



耳で聴いて読書できるように本を一冊まるごと音声にしたものが録音図書です。現在，録音図書は『^{ディ}^ジ^{タル}図書』と呼ばれるデジタル録音図書が主流です。章や見出し，ページごとに聞きたい場所へ移動することができます。



図書館公式キャラクター じろ

◆音訳・点訳のプライベートサービス

ご希望の資料を音訳・点訳します。

例：学校だよりや家電製品の取扱説明書など・・・

◆読書案内

ご希望の方には、次のようなお知らせを作成し、お送りしています。

(デイジー版：D，点字版：点，テキストデータ版：T
マルチメディアDAISY版：マ)

- ① オカリナ通信 (月1回発行：D)
- ② 東京都公立図書館 録音・点訳図書，
拡大写本新作情報 (隔月発行：D・T)
- ③ 図書館だより (年4回発行：D・マ)
- ④ 新着図書案内 (月1回発行：D)
- ⑤ 視聴覚資料新着図書案内 (不定期発行：D)
- ⑥ 録音図書目録 (年1回発行：D・テ・T)
- ⑦ 市報 (点)
- ⑧ ごみリサイクルカレンダー (点)



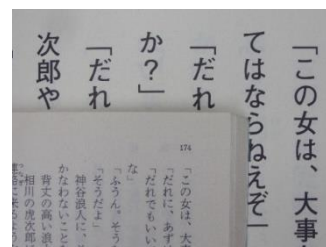
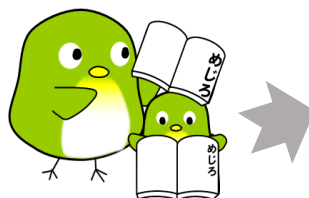
◆大活字本の貸出 ※どなたでもご利用いただけます。

大活字本とは、大きな文字で印刷された読みやすい本です。

中央図書館及び分館にあります。どなたでもご利用いただけます。

大活字本目録(年1回発行)があります。ご希望の方は、中央図書館利用支援係または分館へ。

「大活字本」文字の大きさの比較



◆対面朗読

図書館の本や新聞・雑誌・お手持ちの資料を音訳者がお読みします。

- ・場所：中央図書館6階 対面朗読室または図書館の分館
- ・利用時間：午前10時から午後5時まで 1回2時間
- ・申込み：前日までに日時と資料名をお知らせください。

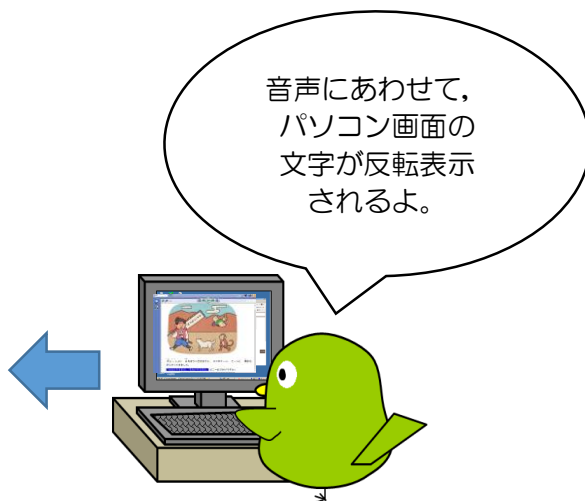
◆マルチメディアDAISY図書の貸出

文字情報をうまく理解することができない方のための、読書をサポートする電子図書です。パソコンやタブレット端末で読みます。

DAISY図書は、音声だけでできていますが、マルチメディアDAISY図書は、文章を音声で読み上げ、画面には文字や挿絵が表示され、読みにあわせて画面の文字がハイライト（反転表示）されます。



「ももたろう」より



マルチメディアDAISY図書を再生するには、「AMIS」などの専用の再生ソフトが必要です。図書館では、実際にご覧いただけるよう、再生ソフトを入れたパソコンとタブレット端末（iPad）も用意しています。

文字情報の理解についての障がいは学齢期になって分かることが多いので、気になったら使ってみませんか？



中央図書館6階
利用支援コーナー
で体験できるよ。



来館が困難な方へ

◆本の宅配

心身の障がい・高齢・病気やケガ・出産前後・入院中など、図書館を利用したくても来館できない方に、資料を直接または郵送で市内のご自宅や病院にお届けします。市民の方のご協力により、市内11館すべての図書館で実施しています。

事前に登録が必要です。中央図書館利用支援係または分館に、電話または直接（代理の方も可）お申込みください。



子どもへのサービス

◆布の絵本・遊具の貸出

聴覚・触覚・手足の運動・情緒など、様々な障がいのある子どもたちのために、布を使って作られた絵本です。

布のもつ柔らかさ、温かさ、視覚的な美しさが、子どもたちに安心感を与えます。マジックテープやスナップをはめたり外したりするのを楽しむうちに、指先の訓練になるという効果もあります。

楽しく遊びながら、子どもの成長・発達を助ける絵本です。

●布の絵本



上：「プープー！」
下：「いないいないばあしましょう！」
のぐち みつよ 作

●布の遊具



「ことり」
製作者：ぐるーぷ・もこもこ

サービスのご利用にあたって

- ・ サービスを受けるには事前に登録が必要です。
- ・ ご利用いただけるのは市内在住、在勤、在学の方です。
- ・ ご本人だけでなく、ご家族やケアマネージャーなど周囲の方からのお問合せもお受けしています。中央図書館利用支援サービス窓口（調布市文化会館たづくり6階）までお越しいただくか、電話でお問合せください。

申込み・問合せ

- ・ 中央図書館利用支援係（調布市文化会館たづくり6階）
- ・ 電話：042-441-6191
- ・ 受付時間：午前9時から午後5時まで

利用支援コーナー

資料やパンフレット、チラシ類を配架しています。
どなたでもご覧いただけます。
ご相談も受付けています。



令和元年度 子どもの本に親しむ会

「ことばの愉しみ、絵本の楽しみ」

講師:石津 ちひろ 氏

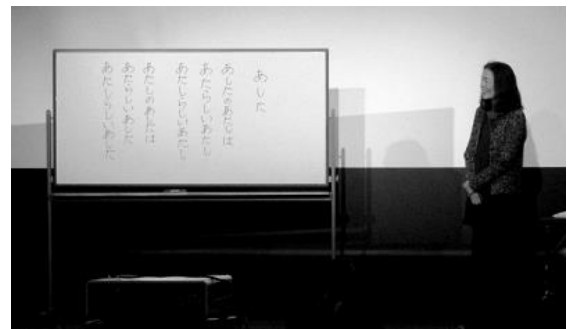
令和元年11月14日(木)に、絵本『ことばあそびえほん』や、「リサとガスパール」シリーズ等の翻訳を手掛ける、絵本作家・詩人・翻訳家として活躍されている石津ちひろさんをお招きして、ことばの楽しさについてお話いただきました。

講演の内容を一部紹介いたします。

● あしたのあたしはあたらしいあたし

初めに、石津さんが「あした」という詩を朗読されました。

詩を声に出して読むことは、簡単そうでいて、毎日毎日心にゆとりを持って言葉とちゃんと真心持つて接するような生活をしていないとなかなかできない。言葉に対する慣れというか、言葉とどのくらい普段馴染んでいるかということにつながる。



これは単なる言葉遊びの詩のようだが、この詩を読んだ方から「ちょっと元気の無い時に枕元に置いてこの詩を読んで眠ると、明日に対する活力が湧いてきて元気になれる」というお手紙をいただいた。だからもし落ち込んでいるようなときこの詩を思い出していただいたり、あるいは口ずさんでいただいたりすると良いかなと思う。

「あした」は、『あしたのあたしはあたらしいあたし』(理論社)に掲載されています。この詩は、「あたしってなればかえると、あしたになるんだよね」という幼い頃の娘さんの言葉から生まれたそうです。

● ことばとともに

私は言葉と関わり、言葉で表現している。

言葉を大切にすることは、自分・身近な人・人生、いろんなものを大切にすることになる。そのことの一番の柱は、言葉の楽しみを知ることだと思う。言葉って楽しいなと思っていただけた人は、その楽しさをそれぞれの活動の場に戻って、もっともっと広めていってほしい。

石津さんが参加者から集った単語で即興の回文を作ったり、みんなで詩を朗読したりと会場全体で一体感の生まれた、とても楽しい講演会でした。



(写真 ●黒澤義教)

石津 ちひろ (いしづ ちひろ) 氏

愛媛県生まれ。3年間のフランス滞在を経て、絵本作家・詩人・翻訳家として活躍している。『なぞなぞのたび』(フレーベル館)でボローニャ国際児童図書展絵本賞を受賞したほか、受賞多数。絵本に『くだものだもの』(福音館書店)など。また「リサとガスパール」シリーズ等の翻訳を手掛けている。



利用者懇談会報告



令和元年11月21日（木）と11月28日（木）に、調布市立図書館利用者懇談会を開催しました。第1回目は文化会館たづくり、第2回目は染地分館を会場に、各回とも「お宝発見！映画資料 ―映画のまち調布―」をテーマに2部構成で実施しました。

第1部は、「映画のまち調布」ならではの映画資料室のご案内や、なかなか触れる機会のない映画の台本やスチール写真などの貴重な資料を紹介しました。

第2部は、参加者の図書館活用方法や図書館へのご要望・ご質問などを含めた意見交換を行いました。

第1回目の意見交換では、図書館活動における予算、利用者数等の推移、職員の体制等、図書館の運営面に関する様々なご意見・ご要望等をいただきました。さらに、「図書館が良くて調布市内へ引っ越してきた」「図書館に週に2回来ているが、図書館は市の施設で一番良いと思う」「調布の図書館に所蔵がない場合、一週間程度で他から取り寄せてくれるのが本当に素晴らしい」「利用者も減ってきている中で、調布市は市として頑張っている」など、日頃の図書館サービスに対しての感謝のお声も多く頂戴しました。

第2回目では、「図書館サービスに大変満足している」「これからも協力したい」といった感想をはじめ、「高齢者への対応やサービスを向上してほしい」「図書館に抵抗感がある人への働きかけを考えてほしい」「地域福祉センター併設の施設なので、講座などの情報を積極的に発信してほしい」「資料の収集に力を入れてほしい」「人気多数の資料の提供速度をあげてほしい」などの要望について熱心な意見交換が行われました。特に、「朗読」や「録音図書」に参加者の関心が集まっていることが伺えました。

染地分館や中央図書館をよく利用してくださっている方々にお集まりいただき、皆様のニーズの多様性と図書館に対する期待を職員一同改めて感じる機会となりました。

各回とも活発に意見を出していただき、皆様の声を直接伺うことができた貴重な会になりました。詳しい内容は、図書館のホームページで公開しています。

今年度の利用者懇談会でいただきました様々なご意見などを活かし、より良い図書館になるよう目指してまいります。



▲第1回目



▲第2回目

肥料の入手が大変だった時代

関 口 宣 明

1. はじめに

明治時代の終わりごろから、大正時代の初めにかけて、調布は「東京の郊外」とよばれるようになります。しかし、そのようななかでも、自分のところで必要なものは自分の手元でまかなうため、着物を織ったり、食べ物を田畑でつくったりする自給自足の農村のくらしは続いていました。

関東ローム層（赤土）というやせた土地で作物を栽培するには、多量の肥料が要ります。そこで身近な自然から材料をとったり、東京から、野菜やお金と引き換えに下肥（糞尿）をとってきたりしなければなりませんでした。

2. 肥料に使われた落葉

大正時代に化学肥料ができて、費用節約のため、最も多く使われたのは堆肥と下肥でした。堆肥をつくるためには、落葉、米ヌカ、草木灰、下肥、家畜の肥などが要りました。明治時代はじめの仙川地区の記録には、農業の合間に女性が落葉をかきとったと記されています。調布の農家では、毎年12月から3月にかけて、「クズハキ」といって、近くの雑木林や多摩川対岸の丘陵まで、荷車に大きな竹カゴを積んで、クズとよばれる落葉を掃きに行きました。熊手でかき集めたコナラやクヌギの枯葉は、カゴ一杯に詰めこむと30kg以上の重さになりました。10坪のサツマイモの苗床に入れる落葉の分量は、1000kgを超えたといえます。明治末期には、サツマイモは、東京の焼芋専門店に出荷していました。

3. 下肥曳きの苦勞

下肥が良質な肥料として盛んに使われるようになったのは江戸時代にさかのぼります。旧金子村（西つつじヶ丘付近）には、文化2（1805）年に、江戸まで肥取りに行った記録があります（『近世調布の村むら』）。

当時、主食の一つだったヘエ（稗）は種まきにダラ（下肥）を多く使い、さらに明治時代の終わりごろに養蚕が盛んになると、桑畑にも下肥が必要になりました。そこで村人たちは、夜明け前に新宿、四ツ谷などの市場にでかけ、砂糖、刻み煙草などの日用品を買うとともに、60kg以上の重さのある肥桶を4本以上積んでくる往き来を、少なくとも月に4、5回は繰り返していました。



荷 車

甲州街道にある「滝坂」（東つつじヶ丘）は、荷車の後押しが必要なほどの難所として、府中や多摩川の対岸の矢野口（現在の稲城市）、菅（現在の川崎市多摩区）から東京へ肥曳きに行く人たちに知られていました。

4. 肥料づくりから酪農へ

東京との往復で、調布の人たちはくらしの西洋化が進んでいた都市の酪農に目をむけるようになりました。そして明治23（1890）年には、多摩地方でいち早く、副業の試みとして、深大寺地区に「浅田牛乳搾取牧場」ができました。本来、牛や馬を飼うことは、運搬に使うほか、厩肥を得ることが目的でしたので、この出来事は、調布の農村生活が都市の影響を受けて、次第に変化していったことを物語っています。

参考文献：『調布市史下巻』

刊 行 物 番 号

2019-182

図書館だより 第255号

令和2年3月25日発行 [市内印刷]

発行 調布市立図書館

〒182-0026 東京都調布市小島町2-33-1

TEL 042-441-6181

<http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/>